

文字盤によるコミュニケーションを受容できない

筋萎縮性側索硬化症患者への援助

— 記録用紙を活用し介助員の関わりを振り返る —

池信彩花^{1)*} 中村一貴¹⁾ 宮本真理子¹⁾ 圓井和恵¹⁾ 花倉由紀¹⁾

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 1 病棟

Assistance in communication for a patient with amyotrophic lateral sclerosis who dislikes the use of a letter board for communication

– Reviewing a record chart to clarify the participation of caregivers in communication –

Ayaka Ikenobu^{1)*}, Kazuki Nakamura¹⁾, Mariko Miyamoto¹⁾, Kazue Marui¹⁾, Yuki Hanakura¹⁾

1) The 1st Ward, Department of Nursing, Tottori Medical Center

*Correspondence: byoutoul@tottori-iryu.hosp.go.jp

要旨

人工呼吸器を装着している神経筋難病患者にとって訴えが通じないことは大きなストレスになる。援助者も訴えを理解出来ない負担が大きい。お互いの良好なコミュニケーションのために文字盤の導入を図りたいと考えるが、文字盤の使用に拒否的な患者の場合、援助者の患者への関わりを統一することが必要と考えた。そのために記録用紙を作成し、患者の意思表出の手段や表情、確認に要した方法や時間、および援助者の援助方法や文字盤使用法、文字盤使用時の患者の様子について記録を行った。記録用紙から得た収穫としては、介助員の方から積極的に働き掛けて文字盤の練習時間を取り入れていくようにしたら、文字盤の使用回数は増えたこと、患者の方が「頑張る」という意欲が出たことである。反省点としては、文字盤で患者の訴えを確認できた場面での手順や方法に関する詳細な記録はほとんどなかったことで、日々の業務の中での記録による介助員への負担を配慮し、記録用紙への記入方法や内容を検討し、必要な情報が短時間で記載できるように考慮して作成すべきであった。しかし、文字盤を使用した際、患者が途中で断念することもあり、文字盤の促しに対する拒否もみられた。その理由を知ることで、本研究以前からあった文字盤使用によるコミュニケーションに消極的な原因が解明できるかもしれない。こうして援助側の患者への関わりや患者の感じ方を振りかえることにより、文字盤を受け入れて練習していくことができた筋萎縮性側索硬化症の事例を紹介する。鳥取臨床科学 4(2), 142-147, 2011

Abstract

It must be very stressful that patients with intractable neuromuscular disorders who are artificially ventilated cannot express their complaints, enabling caregivers to understand. It must also be a heavy burden on caregivers unable to understand the complaints of such patients. We should consider introducing a letter board